

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【公表番号】特表2010-528151(P2010-528151A)

【公表日】平成22年8月19日(2010.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2010-033

【出願番号】特願2010-509376(P2010-509376)

【国際特許分類】

C 08 F 6/22 (2006.01)

C 08 F 214/18 (2006.01)

【F I】

C 08 F 6/22

C 08 F 214/18

【手続補正書】

【提出日】平成23年5月12日(2011.5.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(A) 少なくとも2つの共重合性モノマーの共重合単位を含むフルオロエラストマーを含む水性分散物であって、第1モノマーが、前記フルオロエラストマーの総重量を基準として、25～70重量パーセントの量で存在し、前記第1モノマーがフッ化ビニリデンおよびテトラフルオロエチレンからなる群から選択される分散物を提供する工程と、

(B) ポリエチレンイミンおよびポリエチレンイミンのコポリマーからなる群から選択される水溶性の凝固剤ポリマーの水溶液を前記水性分散物に加え、それによって前記フルオロエラストマーを凝固させる工程と

を含む、少なくとも53重量パーセントのフッ素を有するフルオロエラストマーの製造のための凝固法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

熱処理したフルオロエラストマーを含有する組成物の両方(サンプル2および3)は、より短いt'50およびt'90時間から明らかに、未処理小片(サンプル1)よりはるかに速く硬化した。加えて、260のポリマー温度で押し出したフルオロエラストマーをベースとする、サンプル3は、150で押し出したフルオロエラストマーを含有するサンプル2が硬化するよりもわずかに速く硬化した。

本出願は、特許請求の範囲に記載の発明を含め、以下の発明を包含する。

(1) (A) 少なくとも2つの共重合性モノマーの共重合単位を含むフルオロエラストマーを含む水性分散物であって、第1モノマーが、前記フルオロエラストマーの総重量を基準として、25～70重量パーセントの量で存在し、前記第1モノマーがフッ化ビニリデンおよびテトラフルオロエチレンからなる群から選択される分散物を提供する工程と、

(B) ポリエチレンイミンおよびポリエチレンイミンのコポリマーからなる群から選択

される水溶性の凝固剤ポリマーの水溶液を前記水性分散物に加え、それによって前記フルオロエラストマーを凝固させる工程と
を含む、少なくとも 53 重量パーセントのフッ素を有するフルオロエラストマーの製造のための凝固法。

(2) 水溶性凝固剤ポリマーの前記水溶液が 2 以上の pH を有する (1) に記載の凝固法。

(3) 水溶性凝固剤ポリマーの前記水溶液が 3 ~ 9 の pH を有する (2) に記載の凝固法。

(4) 押出機中少なくとも 150 の温度で、硬化剤の不存在下に、凝固されたフルオロエラストマーを熱処理する工程をさらに含む (1) に記載の凝固法。

(5) 硬化剤の不存在下での、凝固されたフルオロエラストマーの前記熱処理工程が押出機中で少なくとも 250 の温度において行われる (4) に記載の凝固法。

(6) 剪断の不存在下に少なくとも 1 時間少なくとも 200 の温度で、硬化剤の不存在下に、凝固されたフルオロエラストマーを熱処理する工程をさらに含む (1) に記載の凝固法。